

NPO法人

2008年(平成20年)5月1日

# 体協だより

第4号

発行：特定非営利活動法人 羽村市体育協会



◆大会に出場した体育協会スポーツレーナーチームと体育協会大野会長

## 羽村市駅伝大会開催

第26回羽村市駅伝大会が、3月2日、NPO法人羽村市体育協会の主管で開催されました。町内会・自治会7チーム、女子15チーム、一般37チーム、中学生男子15チーム、計74チーム、426名が参加しました。

### 今号の主な内容

- |  |   |
|--|---|
| ◇平成19年度の活動を振り返る                                | 2 |
| 主催・主管事業の概要／指定管理者への取り組み／上部団体等の大会／共催・協力事業／その他の活動 |   |
| ◇ジュニア育成事業                                      | 4 |

# 平成 19 年度の活動を振り返る

## 1. 主催・主管事業の概要

体育協会の主な目的の一つ、「地域スポーツの振興」のために、平成 19 年度も、体育協会主催の事業や各種大会を主管しました。

### (1) 第 38 回羽村市総合体育大会

6 月 30 日に総合開会式を開催し、軟式野球・水泳・ラジオ体操・バスケットボール・ソフトボール・剣道・少年野球・バレーボール・陸上・柔道・弓道・空手・バドミントン・卓球・テニス・居合道・ゲートボール・ソフトテニス・サッカー・スキー・中学軟式野球・ダンススポーツ・カヌー・駅伝・ゴルフ・なぎなたの 26 種目が行われました。

### (2) 第 60 回羽村市民体育祭

10 月 7 日、富士見公園で開催された市民体育祭は、17 種目に 4,563 名の市民が参加しました。第 60 回を記念した町内会・自治会対抗競技の総合優勝は、川崎西町内会が栄冠に輝きました。

なお、体育協会からは、大会の準備・運営を担う 82 名の実行委員を派遣し、無事実施できました。



### (3) 第 32 回御岳～羽村完歩大会

市民の体力・健康増進のために開催している御岳～羽村完歩大会は、今回で 32 回を迎えました。年々、参加者が減少していますが、72 人の参加で開催することができました。



### (4) 第 22 回羽村市ふれあい綱引き大会

羽村市教育委員会との共催事業として、平成 20 年 1 月 27 日に実施しました。

町内会・自治会 10 チーム、一般男子 3 チーム、一般女子 4 チーム、男女混合 7 チーム、小学生 15 チームの計 39 チーム、372 名が参加しました。



### (5) 第 26 回羽村市駅伝大会

3 月 2 日、富士見公園付近をコースとして開催されました。



## 2. 上部団体等の大会

### (1) 都民大会春季大会

第60回都民大会に、13種目の参加団体の代表選手が、一致団結して大会に臨むため結団式を行いました。



### (2) 第41回市町村総合体育大会

7月22日、昭島市民会館で開会式が行われました。羽村市からは、陸上、ソフトテニス、バレーボール・卓球・水泳・剣道・弓道・ゲートボール・空手・軟式野球の10種目に155名が参加しました。

### (3) 第17回西多摩広域行政圏体育大会

10月21日に第17回西多摩地域広域行政圏体育大会が青梅市・奥多摩町を会場に開催され、羽村市からは、バレーボール・バドミントン・テニス・ゲートボール・インディアカ・卓球・ソフトテニス・陸上競技・ソフトボール(ファーストピッチ・スローピッチ)・軟式野球・サッカー・レク種目(グラウンドゴルフ)の13種目に選手250名が参加しました。

## 3. 共催・協力事業

体育協会では、羽村市や関係機関との協働により、健康づくり教室、健康体力相談、健康づくり講座を共催として実施するとともに、

- ①市民チャリティゴルフ
- ②心身障害者スポーツ・レクリエーションのつどい
- ③羽村市少年少女球技大会
- ④はむら夏まつり

⑤高齢者レクリエーションのつどいなどに協力しました。

また、年間の事業として、

- ①スポーツトレーナーによるトレーニングルームでの指導・運営
  - ②スイミングセンターの受付業務
  - ③富士見公園クラブハウスの運営
  - ④スポーツ教室(バドミントン・テニス・卓球・水泳・インディアカ)の開催
  - ⑤初心者ウォーキング
  - ⑥アクアビクス
- などを実施しました。



## 指定管理者の取り組み

羽村市体育協会は、平成16年4月1日からNPO法人としての事業を開始し、4年が経過しました。

これまでのスポーツ振興事業に加え、「社会的地位の確立」と「財政基盤の確立」という2つの大きな目標の実現に向けて、平成19年度も、指定管理者として、羽村市弓道場、羽村市スイミングセンターの管理運営を行いました。

弓道場の利用実績としては、年間で、6,750人の方の利用があり、弓道教室や弓道大会、講習会を開催し、多くの参加を得ることができました。

今後も、利用される方に満足いただける施設管理に努めていきたいと考えています。

## 体育協会賛助会費

体育協会賛助会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

19年度の賛助会費は、個人・法人合わせて、225件、1,189,000円となりました。感謝申し上げます。

# 国体を目指し ジュニア育成に 取り組む

平成 18 年度から、東京都は、スポーツ水準の向上を図り、地域におけるジュニアスポーツの普及と育成を推進するため、「ジュニア育成地域推進事業」を始めました。

今年度は、(財)東京都体育協会を通じて総額 200 万円が委託金として羽村市体育協会に交付され、羽村市体育協会加盟団体の「ジュニア育成事業」と「ジュニア育成ネットワーク構築・活用事業」を実施しました。

## 【ジュニア育成事業】

- ①はむら桜づつみジュニア駅伝大会
- ②羽村市サッカー協会ジュニア育成
- ③国体・オリンピック選手を目指す羽村ジュニアバレーボール育成／教室
- ④羽村市近郊ジュニアアルペンスキー競技指導者養成／ジュニアスキー教室  
チャンピオン養成コース（空手道）
- ⑥国体選手を目指す羽村ジュニア弓道選手の育成

## 【ジュニア育成ネットワーク 構築・活用事業】

平成 19 年 10 月 27、28 日に、羽村市体育協会加盟団体のジュニア指導者と体育協会役員合同による「ジュニア育成ネットワーク構築・活用事業」の一環として、研修会を実施しました。

- ①ジュニア育成における指導者の役割とあ



るべき姿

- ②ジュニア育成のための横のつながりをどう構築するか。
- ③ジュニア育成のためのスポーツ環境（ハード面）

以上について意見交換をするとともに、健康運動指導士の武田美奈講師による「ジュニア選手の力を引き出すコミュニケーションスキル」の講義を受けました。



◆健康運動指導士の武田美奈講師

武

田講師から学んだコミュニケーション・スキルについて、簡単にまとめてみました。

## ☆「教える」から「自発的な行動を促す」コミュニケーション・スキルが大切☆

そのために大切な 3 つのスキル

- ①「気づかせる」ための質問をすること  
ジュニア選手が、自ら考え、感じられるような言葉による指導をしよう。
- ②「伝える」より「聴く」能力を高める  
ジュニア選手の気持ちを聴ける指導者になろう。
- ③実現可能な目標を設定  
勝利や順位といった結果目標ではなく、選手が自らコントロールできる行動目標を設定してあげられる指導者になろう。

## 体協だより 第 4 号

発行：特定非営利活動法人羽村市体育協会  
羽村市羽加美 1-29-5  
電話／042-555-1698

<http://www.hamura-taikyo.npo-jp.net>

発行日：平成 20 年 5 月 1 日

編集：体育協会指導広報部

